2022年度 学校関係者評価報告書

学校法人湘央学園
湘央生命科学技術専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人湘央学園 湘央生命科学技術専門学校 学校関係者評価委員会は「2022年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて保護者、卒業生、業界関係者による学校関係者評価を実施しましたので、下記のとおり報告します。

１．教育理念・目的・育成人材像

教育理念・目的・人材育成像は明確に定められており、生徒、教員ともに概ね周知されている。今後はこれらを入学前より周知させた方が良いと考えており、オープンキャンパスなど、広報活動を通じ、あらかじめ周知が行えればと考えている。

２．学校運営

自己評価はほとんど「適切」の評価で、当年度の理事会・評議員会で次年度の学園運営方針・学科事業目標を設定し、次年度の理事会・評議員会で目標達成状況報告を行っている。周知は行っているが、情報が不明確なところもあるので、学科事業目標設定の過程や情報伝達について検討していく必要があると考えている。コンプライアンスについては、苦情・要請があった場合は都度、報告書を作成し、対処した記録を残すことが必要だと考えている。

上記の自己評価に対して外部委員より意見はなかったものの、教員における時間外労働勤務、時間外手当の不支給については問題視され、将来的に是正するべきではないかという意見が挙げられた。

３．教育活動

研修計画はされているが、各教員が自ら立案しておらず、今後は各自で研修計画を立てもらい適正に実施できたのか確認する仕組みを構築する。また、非常勤講師との情報共有・連携が不十分であったため、今後、対応できるように検討していく。

外部委員より、非常勤講師の高齢化、若手の講師を登用すべきとの意見があがった。本学としては、高齢の方は現場・教育経験も豊富で学生の理解度を見ながら授業をすることに慣れており、将来的な観点から徐々に交代も必要になってくるが、すぐに交代という計画はない。特に若い方は本業の仕事があり、出講をお願いするのも難しい。

救急では専任教員、実習助手の数が少なく、将来的な観点から増員を予定する。その中には、救急救命士の有資格者以外に、一般教養対策が指導ができる人材も確保していきたい。

４．学修成果

各学科ともに2022年度卒業生の就職率は「適切」の評価で、高い就職率を挙げてい

るが、入学者に対する卒業率については、2022年度卒業生において80%を切ってしまった学科があり問題となっている。学校全体としても引き続き退学者ゼロ、全員合格・卒業をめざす。特に早い時期から現場見学やボランティア活動を通じ、外の刺激を受けさせる場面をつくり、モチベーションの維持につなげていく。

５．学生支援

自己評価においては、各項目いずれも適切に実施されていると評価できるが、外部委員より、中途退学の要因に心身疾患による者が多い点を指摘され、他校ではカウンセラーを増員、相談の機会を増やしている所もあることから、本学でも同様の対応をすべきとの意見が挙げられた。今後の検討課題としたい。

６．教育環境

各学科においても、実習機器の経年劣化が進んでおり、すぐに授業への影響はでていものの、今後、計画的に取り替えを行っていく。救急では就職試験対策として体力増強を目的とするトレーニングルームを学内に整備したい。学内にスペースがなく、設置困難な場合は、近隣のスポーツジムと連携し、学生が利用できるよう検討したい。

７．学生の受入れ募集

高等学校への情報提供、学生募集活動、入学辞退者に対する学生納付金の返還等は適切に行っている。また、生徒募集活動に関する計画や内容については、学務部において、年度ごと事前に検討を行っているが、今後は全教職員が生徒募集活動の計画や内容を共有できるように図りたいと思う。これからの生徒募集活動は全学的な取り組みが不可欠だと考えている。

８．財務

特に大きな問題はなく、健全にすすめられている。また、決算終了後は財務状況を学園ホームページ内で適切に公開されている。

ただし、外部委員より近年の入学生が減少傾向であることから、減収が懸念され、今後の経営の見通しについて質問があったが、学園側としては、今後も医療系のニーズは続き、極端に入学生が減少することはないと予測しており、当面は広報活動の充実化、中途退学者の阻止、身近な経費削減策を軸に経営の安定化を図っていく。

９．法令等の遵守

所轄官庁への定期報告義務、職業実践専門課程として評価結果の公開義務があり、いずれも適切に実施されている。

10．社会貢献・地域貢献

新型コロナウィルス対策の緩和により徐々にボランティア活動が再開されてきた。今後は学科個々で取り組むのではなく、全学的な取り組みをしていきたい。